

第 17 回富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議の意見とその対応

1 日 時 令和 7 年 4 月 25 日（金）14：00～15：30

2 場 所 富山県民会館 611 号室

3 内 容

(1) 議 事

ア 富山県食品ロス削減推進計画の見直し（計画案）について

エ 意見交換

4 主な意見の概要

委員意見	対応等
<計画素案> ・食品ロス量は国よりも削減が進んでいるのに、さらに高い目標を掲げる必要はあるのか。 ・富山県は食品ロスの削減が進んでいるので、目標は最低限にとらえ減らしていけばよい。 ・資源は有限なので、食品ロスは少ないほうが良い。食品ロスゼロは難しくても少しでも減らす努力をするべき。	・日本では食料の約 6 割を海外に依存する一方で、大量の食品ロスを排出しています。食品の生産・製造、流通、消費の過程や食品ロス・食品廃棄物の焼却処理には燃料が使われることから、食品ロス削減は気候変動対策にもつながります。また、家計負担や地方公共団体の財源支出の軽減等も期待されます。 ・国と同等の目標である「2030 年までに食品ロス半減」の達成を目指し、改定した計画に基づき、1 人 1 日当たりの食品ロスを 78g に抑えることを目標に、引き続き有限な資源を有効に活用するため、一層食品ロス・食品廃棄物削減に取り組みます。
<事業系食品ロス> ・食べ残し持ち帰り促進ガイドラインは食中毒等との兼ね合いは大丈夫なのか。衛生的に心配。 ・持ち帰りは食品ロス削減になるかもしれないが、容器のごみが出るのが気になる。	・食べ残し持ち帰り促進ガイドラインでは法律面・衛生面でのリスクの低減を図ることで、事業者・消費者双方が安心して食べ残しの持ち帰りを促進することができるよう、事業者が民事上 又は食品衛生上

・持ち帰りの方向に進んできたことが重要。成功するように前向きに考える必要がある。 ・持ち帰りに関して、協力してPRしていきたい。 ・3015 運動の名刺サイズの案内を置く実証実験をやってみたい。 ・まずは食べきり、そのうえで持ち帰りという共通認識をもって取り組んでいけばよい。	留意すべき事項及び消費者に求められる行動について整理されておりますので、その内容も含めて周知に努めます。 ・持ち帰りの周知と合わせて、容器包装のプラスチック資源循環を推進します。 ・現在取り組んでいる食べきりに関する活動を継続して取り組み、そのうえでどうしても食べることができない場合は持ち帰りということを周知してまいります。
<食品ロス全般> ・一人一人が前向きになるよう、情報発信、普及啓発に力を入れるべき。 ・HP に団体の取組みを掲載して、啓発を進めていきたい。 ・手法を変えてマンネリ化を防ぎながら実践を進めてほしい。 ・若い世代へ食品ロス削減のための具体的な取組みを伝えていくなど、実効性のある形にしてほしい。	・優良な実践例の紹介、食品ロス削減の動機付けとして、家計への負担軽減やSDGsの達成につながることを動画やホームページ等を通じて情報発信してまいります。 ・若い世代が集うイベント等や食育・環境学習などにおいて、食品ロス削減推進計画の改定を踏まえ、新たに作成したハンドブックも活用しながら、具体的な取組みを紹介、実践を促してまいります。 ・企業・団体においても食品ロス削減に関する情報提供にご協力いただきますようお願いいたします。